

弓達 秀樹 議員

(一問一答方式)

- ①アクトピア大洲
- ②社会福祉協議会
- ③セクシュアルマイノリティ (LGBTQ) への理解と社会的配慮



アクトピア大洲について

問 老朽化が懸念される肱北公民館をアクトピア大洲へ移転することで、再建費用の削減とあわせて住民のための新たな価値観を生み出す施設となるが、その可能性はあるか。

答 公民館の基本方針として、大洲市公共施設等総合管理計画の中で「施設の利用状況を踏まえて他施設との複合化や統廃合などを検討する」、「将来の人口動向に合わせて、施設の改修や建替時に、減築を行う」などを示しています。

そのような中で、肱北公民館を有する社会教育センターは旧耐震基準で建てられており、将来、耐震補強及び大規模改修、または施設の規模を縮小した改築工事が必要となってきます。アクトピア大洲内に肱北公民館等を移転することは、駐車場も広く公共施設を利用する方の「ついで利用」による消費の創出や客層の拡大などの効果が見込まれますが、移転することとなった場合には、賃貸借の期間、賃貸借料、維持管理費用、契約の解除や違約金等の様々な入居条件と、ホール、会議室、調理室など公民館機能を整備するための移転に係る施設の改修費用、災害時の避難所としての機能をどうするかなどを総合的に判断する必要があります。

今後、テナント入居について条件が提示された場合には、その可能性を総合的に判断するため、様々な角度から慎重に検討を重ねたいと考えています。

セクシュアルマイノリティ(LGBTQ)への理解と社会的配慮について (LGBTQへの理解を深めるための啓発活動)

問 LGBTQへの理解を深めるため、啓発に取り組んでいただきたいが、具体的な考えはないか。

答 性に対する発言はタブー視されがちであることから、性的指向に関して、男性が男性、女性が女性を好きになることに対し、根強い偏見があり苦しんでいる人々がいいます。また、体の性と心の性の不一致に悩みながら周囲の心ない好奇の目にさらされ、苦しんでいる人々もいます。

現在、本市では、こうした性的指向や性自認を理由とした偏見をなくし、人権意識を高め、理解を深めるために各公民館や行政、各種団体、教職員等の人権学習会において性的指向、性自認、SOGI(ソジ)に関する意識を高める内容を含め、学習を実施しているところです。また、NPO団体から講師を招いたり啓発学習ビデオを活用し、学習会を行っています。

今後は、これまで実施できていない団体の人権学習会に性的指向、性自認の学習内容を取り入れていくことや、人権啓発セミナーを開催することとしています。また、学校教育との連携を図りながら、計画的に啓発活動を推進する予定です。

セクシュアルマイノリティ(LGBTQ)への理解と社会的配慮について (パートナーシップ制度の導入)

問 多様性を認め合う社会環境を構築するため、県内でもいち早くパートナーシップ制度を導入していただきたいと考えるがいかがか。

答 パートナーシップ制度は、現在、多様性を認め合う観点から各自治体での導入が増えています。世界的にみても社会的理解が深められ、法律婚として認められる国もあるなど導入が広がっています。

日本では、パートナーシップ制度による家族関係の証明において、法律に基づいて行われる行政サービスは限られていますが、一方で民間の身近なサービスを受けられる場合が大きいと思われます。

本市でも先行して導入している市町の状況を調査・研究したうえで早期に導入したいと考えており、可能であれば来春の導入に向けて努力していきたいと考えています。

全ての人々が自分らしく生きていくための権利が尊重される社会、市民の誰もが幸せを実感できるまちを目指していきます。